

パリジャン・パリジェンヌを魅了した倉敷テキスタイル ～デニムの凱旋「日本・倉敷のものづくり展」～

パリ事務所

2013年2月14日(木)から2月16日(土)までの3日間、パリ市内の展示会場にて「デニムの凱旋～日本・倉敷のものづくり展」が開催されました。以下、展示会の概要をお伝えします。

○展示会の概要

～倉敷市「初」の単独海外出展！～伝統の繊維産業と観光をPR～

今回の展示会は、倉敷の伝統的な繊維産業を全面的にPRすることによる、海外における新たな販路開拓を目的としています。また、繊維産業のプロモーションのみならず、観光PRも実施し、東日本大震災以降8割減となってしまった同市におけるフランス人観光客の誘致にもつなげていく狙いがあります。

今回、デニムメーカーをはじめとする倉敷市内の繊維業者9社が出展し、市としては記念すべき初の単独の海外出展となりました。また、この展示会は、クレアの助成事業「海外経済活動支援特別対策事業」に採択されており、パリ事務所としては、展示会の実施に向けて、企画段階からの相談や各関係機関との調整など、総合的に支援いたしました。



展示会パンフレット（フランス語）

○繊維のまち「倉敷」

～「倉敷」で生まれた日本のデニム製品が世界の発祥地に凱旋！～

倉敷市は、学生服、デニム製品、作業服、帆布や畳縁など様々な種類の繊維製品が盛んに生産されています。とりわけデニム製品については、1965年に日本で初めて倉敷市児島地区でジーンズが生産され、現在では世界のアパレルバイヤーが注目するデニム製品の産地となっています。同地でのジーンズ生産は、ヨーロッパからアメリカを経由し、日本の倉敷・児島にたどり着いたという経過を経て、日本の綿布産業と融合されて独自に進化したものです。今回の企画展名“デニムの凱旋”も、フランスから興ったデニムのムーブメントが、日本で独自の進化を遂げて、フランスに再上陸し、さらなる創造のステップへ、という思いが込められたものです。

フランスにおいては、倉敷市の大原美術館はとて有名ですが、まだまだ「倉敷」という地名は浸透していない現状があります。そのような状況の中で、来場者に対して「倉敷」の産業のポテンシャルを総合的に印象づける展示を狙いました。例えば、フランスでもよく知られ、倉敷市での製品が有名なマスキングテープ¹を使ったデザインアートや、会場前に展示会と同一イメージで装飾した電気自動車アイ・ミーヴ（倉敷市水島工場で生産されている）²を展示する等です。これらの展示も来場者の興味を引き付けるコンテンツとなり、集客効果にも一役買いました。

○展示会の様子

～3日間総勢1,000名が来場！今後のビジネスチャンスにも期待！

展示会場は、3日間常に来場者が大勢つめかけている状態で、総勢約1,000名を記録しました。来場者は、実際に、生地に触れてその質感に驚いたり、ジーンズに施されているダメージや色落ちの加工に興味を持って熱心に質問をしたりと、反応は上々でした。また、現地メディアの取材や、デザイナーやバイヤーなど関係者とのコンタクトや商談もあり、今後のつながりや展開が期待できそうです。

展示会2日目に行われたレセプションには、約300名の関係者が集まりました。倉敷市の伊東市長、在仏日本大使館の森川参事官のあいさつに続き、在仏岡山県人会の影山会長の乾杯があり、レセプションは盛況のうちに行われ、関係者間のネットワークを築くのに、大変よい機会となりました。また、司会進行のサポートには、イナルコ³の学生が協力しており、将来の倉敷市そして、日本の情報発信を担ってくれるものと楽しみに期待しております。



レセプションにおける伊東市長のあいさつ



仏デザイナーとのコラボレーションデニム

¹ 塗装やシーリング・コーキング等の際に作業箇所以外を汚さないために貼る、保護用の粘着テープ。現在では、デザインやラッピングにも使用されており、倉敷市にあるカモ井加工紙の製品が有名。

² アルファベット表記は、i-MiEV。三菱自動車工業の電気自動車で、倉敷市水島工場にて生産されている。

³ フランス国立東洋言語文化研究所（Institut national des langues et civilisations orientales）の略称。フランス・パリにある研究機関、高等教育機関で、日本語学部がある。

○参加事業者の感想

～「海外での販売展開の方向性が見えてきた」との声も～

参加した倉敷の事業者からは主に次のような感想が寄せられました。

- ・多くの方に、実際に商品を手にとって見ていただけたことで、品質の高さを実感いただけたのではないかと。
- ・現地ショップオーナーと商談する中で、今後の海外における販売展開の方向性が見えてきた。
- ・商品のコラボレーションについて打診をいただけるなど、新たな展開につながるネットワーク構築の足がかりができた。



来場者に説明をする出展者（デニム製品メーカー）



来場者に説明をする出展者（デニム着物メーカー）

○出展企業一覧（会社名 50 音順）

No	会社名	主な取扱品目
1	有限会社 Klax-on	デニム製品
2	有限会社 正藍屋	デニム製品
3	株式会社 ショーワ	カジュアルウェア向けテキスタイル、藍染製品
4	高田織物 株式会社	畳縁製品
5	寺粉屋企画（倉敷着物小町）	デニム着物
6	株式会社 寅吉	ワーキングウェア、特殊作業服（鳶服等）
7	ハイロック	デニム製品
8	株式会社 バイストーン	帆布製品
9	松井織物 株式会社	畳縁製品

○フランスにおける日本繊維の評価は高い！～日本文化・日本食ブームも追い風～

現在、国内の繊維産業は、安価な海外商品の流入や原料価格の高騰など、非常に厳しい環境下であり、倉敷市の場合も例外ではありません。しかしながら、フランスの繊維関係者の話を聞くと明るい兆しも感じられます。例えば、2000 年代に流行ったプレミアム・

ジーンズとして、エビズ、エドウィン、45rpm といった日本のメーカーはフランスでも人気があり、それは糸の品質が高く、伝統・技術・職人技という要素が評価されたからだという話がありました。また、テキスタイルの総合見本市「プリメール・ヴィジョン」⁴においても、日本製デニムについての評価が高く、日本製の展示を充実させたいといった意向があった程です。このように、フランスにおける日本製の繊維に対する評価はとて高く、またそれと合わせて、日本文化や日本食のブーム、親日的な気運などがプラスに作用する面もあります。

今回の展示会がきっかけとなり、倉敷市だけでなく、日本繊維の再評価につながることを期待したいと思います。

〇ブランドイメージを息長く育てる

～継続した展開・情報発信で、また種を次なるステップへ～

今回の出展について、ビジネスマッチングや販路開拓等において、すぐに成果を求めることは難しいかもしれません。例えば、バイヤーは、商品の評価や業界内での口コミ、企業の体力等を見極めたうえで初めて交渉に臨みますし、さらに現在の厳しい経済情勢も手伝って、なおさら慎重姿勢となる傾向があることは否定できません。しかし、こつこつと継続して展開し、効果的に情報発信をすることで、顔の見える人的ネットワークが広がり、口コミで倉敷の繊維の評価が伝わり、徐々に効果が現れてくるものなのです。今回の展示会においても、在仏日本関係機関をはじめ、多くのネットワークに支えられて事業がひとつの形になりました。展示会を一過性のイベントで終わらせることなく、今回また種に水を与え続けることが、次なる大切なステップへとつながっていきます。

「倉敷」という都市ブランドを、地域全体で息長く育てていくという意識の共有が今後ますます重要になってくると考えられ、それに向けてパリ事務所も精一杯の支援をさせていただきます。

遠くないうちに、パリの若者がバイトで貯めたお金で「KURASHIKI」の繊維製品を購入することが新たなトレンドとなるようお願いながら、まとめとしたいと思います。

パリ事務所では、欧州、フランスにおいて、地方自治体の皆様が実施する経済分野での取組み等を、各関係機関と連携をしながらサポートさせていただきますので、気軽にお問い合わせください。

(原田所長補佐 群馬県富岡市派遣)

⁴ フランス語名は Premi·re Vision。パリにて開催される世界最大級の服装生地総合国際見本市。毎年、世界各国からトップブランドのバイヤーなど約5万人が訪れるとされている。

参考 HP <http://www.premierevision.com/> 日本語 HP <http://www.premierevision.jp/>